

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	UプロフェSSIONナル		
○保護者評価実施期間	R7年2月20日		～ R7年3月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R7年3月1日		～ R7年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しく安心感をもって通所できていると感じてく ださっている保護者のかたが多かった	「楽しい場であること」を土台に、支援を積みかさねている。 「子どもから教わる」ことを法人のモットーにしており、 大人の考えた枠に子どもたちをはめないこと、柔軟性を大 切に臨機応変に動くことを意識している	全ての子どもにとって楽しい居場所であり続けることを 目標に、また日々のデイやイベントでの活動の深まりが 支援の充実につながると考え、活動に工夫を重ねてい く。 子どもから教わる姿勢を忘れず、事業所のモットーであ る「自由度の高いデイ」を追求していく
2	さまざまなイベントの開催が子どもたちの経験の場になっ ている	「ゲーム部」「駅伝部」「クッキング」「お泊まり」など のイベントを定期的で開催することで、好きなものを中心 にグループができつつあり、利用曜日の枠を超えたつなが りができている。ここでできたつながりが強く、新たなコ ミュニケーションの場になっている 事業所単独ではできないさまざまな経験の場になるイベ ントを法人全体のイベントとして開催し、事業所の枠を超 えたつながりができている	今のイベント内容では参加できない子が参加しやすい内 容を練る。 今回のアンケートでいただいたイベント案をできるもの から実現していく イベントでできたつながりを大切に、内容を深め発展さ せていく
3	スタッフにとって耳の痛いご意見も伝えてくださっている	「気になることがあればどんなことでも教えてください」 のメッセージを折々に発信している。 アンケートの冒頭に「耳の痛いご意見ほど私たちの伸びし ると考えています」という一文を添えた。 苦情がゼロよりも、苦情をいただける方がありがたいと考 え、ご意見を出しやすい雰囲気や関係づくりを意識してい る	耳の痛いご意見をくださった方の期待を裏切らないよ う、改善したことを分かりやすいかたちで発信していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの配置数や施設の広さが適切かどうかは分からな いというご意見があった。また各マニュアルなどの説明や 避難訓練の実施状況の説明が不十分だった	放課後等デイサービスの事業所としての決まりごとなどの アナウンスが不十分であった。	多忙なご家族も見ようと思えるような各マニュアル の周知の仕方、放デイ事業所としての決まりごとなどの アナウンスの仕方を工夫する。 具体的にはインスタグラムや広報誌、ホームページなど で日々の活動報告にからめた、読んでみようと思える報 告をする。
2	子どもの情報、発達や課題の共有ができているか、の質問 に対し「どちらともいえない」の回答が10%あった。ま た、個別支援計画を見たことがないという回答を1名の方 からいただいた。 「お子さまやご家族とスタッフとの間で、話しやすい関係 づくりや連絡が取りやすい配慮はされていますか」の質問 に対し「いいえ」の回答を1名の方からいただいた。	私たちのコミュニケーションが不十分にご家庭があると感 じた。また、個別支援計画の内容が日々の支援とマッチし ていないと感じたご家庭があった。 また、このように回答したくなるスタッフと保護者の関係 性があったのだと分かった。	それぞれのご家族の状況に合わせたコミュニケーション の取り方を工夫し関係性を深めていく。 言葉の表面的な部分を切りとらず真意をくみ取ることが できる関わりを意識する。 保護者皆さまも参加できるイベントを多く開催し、対面 で合える機会を増やす。
3	回答数が少なかった	毎年行っているアンケートでいただいたご意見が、支援に 反映されていないと感じたのかもしれない。 質問が分かりづらかったり、回答しづらいものだったかも しれない。	支援の質が改善されていると感じてもらえるよう、また 意見を出して良かったと感じられるよう、上記1、2の 取り組みをすすめていく。 回答しやすいアンケートになるよう工夫する